武道授業　実践の概要紹介

秋田県北秋田市における武道指導（柔道）の実践紹介

北秋田市教育委員会
学校教育課

北秋田市は秋田県の北部中央に位置し、面積は約１１５０平方キロメートルで、秋田県全体の約10パーセントを占めている。平成10年に「あきた北空港（大館能代空港）」が開港しており、東京便が定期便として運航している。

市北部を横断する米代川とその支流河川の流域に優れた農地を形成し、産業は、稲作を中心とした農業や、衣服・木材などの製造業がある。空港の開港により、文化等の交流が一層活発化され、空港利活用によりさまざまな波及効果を生み出している。

県立自然公園に指定されている森吉山麓を中心にクマゲラの棲むブナの原生林や多数の滝布が散在し、優れた自然景観や山岳渓流に恵まれている。美しい自然が響きあい、交流とふれあいの創出により未来を拓くべく、「自然」「ひと」「が調和し、活気とぬくもりある交流都市を目指している。

また、スポーツでも活力ある元気な市を目指し、子どもたちが将来も継続してスポーツ活動ができる環境づくりに努めている。

森吉山の山頂付近に咲く高山植物群

1　北秋田市の武道指導について

市内5中学校の武道の授業は、全ての学校で武道必修化以前から柔道が選択されている。そのため、柔道指導経験の豊富な教員が多い。必修化スタートにあたり、平成24年度からは夏休み中に行われる市教育センター主催の教科別研修会の中で、柔道の指導方法についての研修も実施している。指導の中心を担うのは、柔道を専門とする合川中学校津谷泰介教諭である。津谷教諭は、平成24年度に秋田県総合教育センター教科・研究班研修員として、市内はもちろん秋田県内に広く普及している柔道指導支援教材「柔くん（やわらくん）」の作成に携わった（後述）。

本研修会の武道の研修では、全柔連や関係機関から出された安全に関する最新の通達や事故事例等を確認したり、各校の指導や単元計画について情報交換を行ったりしている。特に今年度は県内で開催された柔道大会で、選手の激しい動きで畳がずれ、隙間に親指を挟んだ選手が脱臼するという重傷事故が発生した。このことを踏まえ、今年度は特に事故防止や安全な指導についての情報を確認・共有した。

外部指導者を活用した授業

また、市内には、必修化スタート以前は、柔道着に一度も袖を通したことがない女性教員が柔道を指導している学校もあった。当初は指導に対して大きな不安を抱えていたが、本研修会で積極的に情報を得たり、秋田県総合教育センターでの実技研修会にも参加したりするなどして着実に指導力を磨いている。現在では秋田県教育委員会と連携を図りながら、地域の外部指導者（柔道スポーツ少年団主宰者）の協力を得て充実した指導を実践している学校もある。

2　柔道指導支援教材「柔くん」について

県内の中学校に広く普及し、教員の指導の支えとなっている柔道指導支援教材「柔くん」について紹介する。

この教材は、平成24年度に秋田県総合教育センター研修員だった津谷教諭が中心となって作成したもので、全国の指導実践や書籍等を参考に、字幕や音声の入った技や受け身の映像、技術的なポイントを示した図、ケガをしやすい場面の静止画像、礼法の指導資料、単元計画例など、指導に役立つ多くの情報が収録されたデータDVD型の教材パッケージである。特に、映像ファイルはプレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint 2010）、表計算ソフト（Microsoft Excel 2010）にリンクされており、パソコンで容易に視聴することができる。

収録されている多くの情報を教員が自身の授業構想に応じて選択することができ、「活用の自由度」が大きいのが最大の特色である。

データＤＶＤに収録されている内容

	フォルダ	主な学習内容
1	礼法について	①柔道の礼法
2	受け身	①後ろ受け身 ②横受け身
3	投げ技	①安全に学習を進めるために ②投げ技の練習のしかた、組み方、崩し、体さばき ③まわし技系…体落とし（たいおとし） ④支え技系…支え釣り込み足（ささえつりこみあし） ⑤刈り技系…小内刈り（こうちがり） ⑥その他…出足払い（であしはらい）
4	固め技	①抑え込みの条件 ②けさ固め系…けさ固めの抑え方、返し方 ③横四方固め系…横四方固めの抑え方、返し方 ④自由練習の仕方 ⑤固め技の補強運動
5	参考資料	①教材操作マニュアル ②教材の活用例（単元計画例等） ③「自由練習を実施するための技能習熟の目安」「自由練習実施時の留意事項」

パワーポイント版　「体落とし」を例に

図２　「体落としメニュー」のスライド

フォルダ内にあるパワーポイントのファイルを開くと、その活動の「メニュー画面」が表示される（図２）。動作を細分化し、軽易な動作から少しずつ難易度を上げて、段階的に学習を進めることができる。つまずきの解決に役立つ映像、予測される危険な場面なども収録されている。

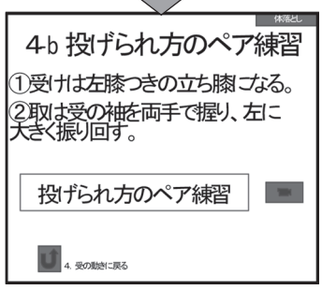

図３　「投げられ方のペア練習」のスライド

「取」と「受」それぞれの動き方や技能ポイントが表示される（図３）。生徒の実態や教員の授業構想に応じて、スライドの文字を書き変えたり、新たに文字や資料を加えたりすることもできる。

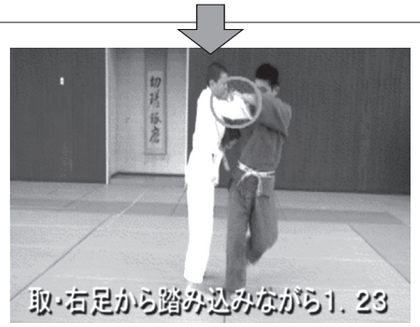

図４　映し出される映像

図３の「投げられ方のペア練習」のスライドにある「映像」のマークをクリックすると、映像が映し出される（図４）。「取」と「受」それぞれの技能ポイントが字幕や音声解説によって提示される。また、映像はスロー再生することができる。

エクセル版　「後ろ受け身」を例に

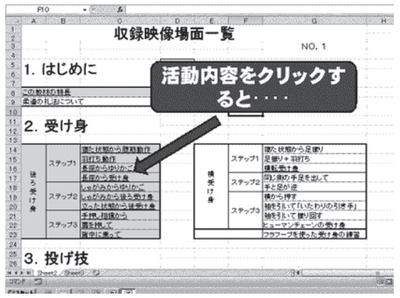

図５　エクセル版の一覧表

エクセルのファイルを開くと活動内容の一覧表が表示される（図５）。

図６　映し出される映像

確認したい内容をクリックすると、映像が映し出される（図６）。必要な情報を短時間で取り出すことができる。

「危険場面」のスライド　印刷して掲示できる

技のポイントを示した静止画像

3　授業での活用方法について

津谷教諭が「柔くん」の作成過程で想定した活用の仕方は次の三点であった。

①教員があらかじめパソコンで映像等を視聴してポイントを確認し指導に生かす。

・柔道の指導経験が豊富で示範ができる教員は、さらに深く技のポイントや指導用語を確認して授業に臨むことができるのではないか。

②指導の際に生徒に映像やスライドを視聴させる。

・指導経験の少ない教員や、示範に不安がある教員は、スライドに示された文字や映像等の情報を生徒と共有することで、より的確なアドバイスをすることができるのではないか。

③ポイントを示した静止画を拡大印刷して活動場所に掲示する。

・映像と一緒に使うことで、よりスムーズな技能の定着を可能にする効果があるのではないか。

4　教員の創意工夫で生み出された「柔くん」の新たな活用方法

市内中学校勤務の教員の多くは、柔道指導経験が豊富なため、①の方法で活用されることが多かったが、昨年度、市内のA中学校で「柔くん」を新しい方法で活用した授業が実践された。

A中学校での実践

「柔くん」を起動させた複数のパソコンや、ケーブルで接続した大型テレビを武道場に設置し、授業中に生徒が自由に「柔くん」の映像を視聴しながら、お互いに指摘し合ったり確認し合ったりして、投げ技や固め技の技能向上を目指す活動が行われた。「柔くん」では、目標とする動作が明確に示されているため、生徒が正確な動きのイメージをつかみやすく、さらに生徒が直接自分の眼で自分や仲間の動きとの違いを見極めたり、目標に近づいているかどうかの習熟度を確認したりすることができた。「柔くん」を通して生徒の主体的な学びを生み出すことができた反面、投げる方向や受け身のタイミングを統一する必要性があることがはっきりした。教員が全てのグループの活動内容を詳細に把握することや、活動に応じた適切な指示と注意喚起、安全な場の設定が求められた。

その他にも県内の中学校で「柔くん」を活用した新たな指導が展開されているので紹介する。

B中学校　撮影した映像を「柔くん」の示範映像と比較する

A中学校　パソコンの映像でポイントを確認（固め技）

B中学校での実践

生徒同士がタブレット端末の撮影機能で受け身や技の動きを撮影し合い、「柔くん」に収録されている示範映像と比較するという活動が行われた。A中学校同様、生徒の主体的な学びを支え、伝え合い教え合う言語活動の充実も図ることができた。

C中学校での実践

相手を尊重する態度や相手と協力して練習する態度を醸成するために、礼法の指導を重視した。「柔くん」に収録されている資料を武道場に掲示したり、事前に道徳の時間でも活用したりして、礼法の定着を徹底した。その結果、お互いを思いやる雰囲気や集中力の伴った緊張感が継続し、授業中の安全な指導に大きく結び付いた。

慎ましく謙虚な態度

「惻隠の情（そくいんのじょう）」について

柔道の授業では，身に付いた技能を使ってお互いに「攻防」をする場面があります。しかし，勝者は敗者の胸に秘めた辛さ，くやしさ，悲しさに共感し、慎ましい態度をとらなければいけません。この相手の内面に気付く態度を「惻隠の情」といいます。勝って興奮したり、ガッツポーズで喜びを表すことは「礼」を失った行為です。攻防が終わったらお互いに心を落ち着かせ，正しい振る舞いで「礼」を交わし合いましょう。

礼法に関するスライドも多数収録されている

研修会で受け身のポイントを確認する女性教員

柔道指導支援教材
「柔くん」データDVD

問い合わせ先
秋田県北秋田市立
合川中学校
津谷泰介
0186(78)2135

5　おわりに

市内の武道指導は、意欲ある研究熱心な教員によって支えられ、お互いに情報交換を進めながら充実した指導が展開されている。今年度までで市内全ての中学校にタブレット端末が配置された。今年度の研修会では、前述のB中学校の実践を足がかりに、タブレット端末のもつ機能や特性を生かした指導方法や授業展開についてアイディアを出し合っている。

授業を進める上で何よりも重要なのは、生徒がケガなく活動できることである。指導する技の特性や活動場面に応じて、教員が危険を予知できる確かな視点をもてるように、事故防止や安全管理についての研修を今後も大切にしていきたい。